

プログラム番号	06039
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 大阪大学 大学院基礎工学研究科		
②学長名	宮原 秀夫		
③所在地	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	基礎工学研究科 教授	
	担当者氏名	田谷 正 仁	e-mailアドレス KISOKOU-D@star. jim.osaka-u.ac.jp
	電話・FAX番号	電話 06-6850-6111 (代表) FAX 06-6850-6151	
⑤ホームページ URL	http://www.es.osaka-u.ac.jp/index.html		
⑥大学院在学留学生数	689人 (うち、国費留学生 238人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	学生の共同指導を基軸とする先端科学技術アライアンス
②プログラムの形態	博士課程 (一貫性) (5年間)
③実施研究科・専攻	大学院基礎工学研究科 物質創成専攻
	(所在地) 豊中市待兼山町1-3
④連携大学・研究科・専攻名	基礎工学研究科 機能創成専攻, システム創成専攻
⑤受入れ学生数	10人 (うち研究留学生優先配置人数: 5人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 220人 (うち専任: 178人、兼任: 20人、非常勤: 22人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 基礎工学研究科・教授
	研究科長名 西田 正 吾

【3. プログラムの内容】

3. 1 目的

大阪大学大学院基礎工学研究科は、大阪大学における理工系教育研究の要として、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」という理念のもとに、既存の理工系専攻分野の枠組みとは異なる研究教育の組織編成と教育方針を推進している。創設以来、深い専門知識と広い学際性に裏打ちされた柔軟で創造性豊かな人材を数多く輩出して、社会の要請に応えるとともに国の内外で高い評価を得てきた。また、文部科学省や日本学術振興会の諸制度を活用し、欧米、アジア諸国の研究者・技術者との国際共同研究や留学生の受入れを促進するとともに、基礎工学研究科独自の未来研究ラボ「国際学生ネットワーク」形成支援活動などを通じて、教職員、学生が一体となって国際交流事業に取り組んでいる。

21世紀のグローバル化の中にあって、中長期的な展望に立って科学技術を見据え、世界を先導する学際融合領域の開拓・創出とその発信につながる国際教育研究拠点の形成が重要となっている。また、このような国際拠点の形成は、深い専門性と高い研究開発能力を身につけた上に、国際的リーダーシップを発揮する研究者・技術者の養成のために不可欠である。

本プログラム「学生の共同指導を基軸とする先端科学技術アライアンス」は、基礎工学研究科の特徴を生かして専攻横断型の組織とカリキュラムによる学際的研究教育をより一層発展させ、21世紀の国際化社会に通用する外国人留学生ひいては日本人学生の育成を目的としている。基礎工学研究科では、平成15年10月より部局独自の取り組みとして、英語による講義や研究指導を行う大学院特別コース「Engineering Science 21st Century」をスタートさせている。本プログラムは、この英語特別コースを発展的に継承し、欧米諸国やアジア地域の優秀な留学生を彼らの就学状況に応じて受け入れる体制を整備し、さらに日本人教員と外国人研究者の国際共同指導（ダブルスーパーバイザー）システムにより、シニア指導教員のみならず若手研究者や日本人学生を含めた真の意味での双方向交流を実現する「先端科学技術の研究教育アライアンス」拠点の創出を目指すものである（次頁の概要図を参照）。

3. 2 特色

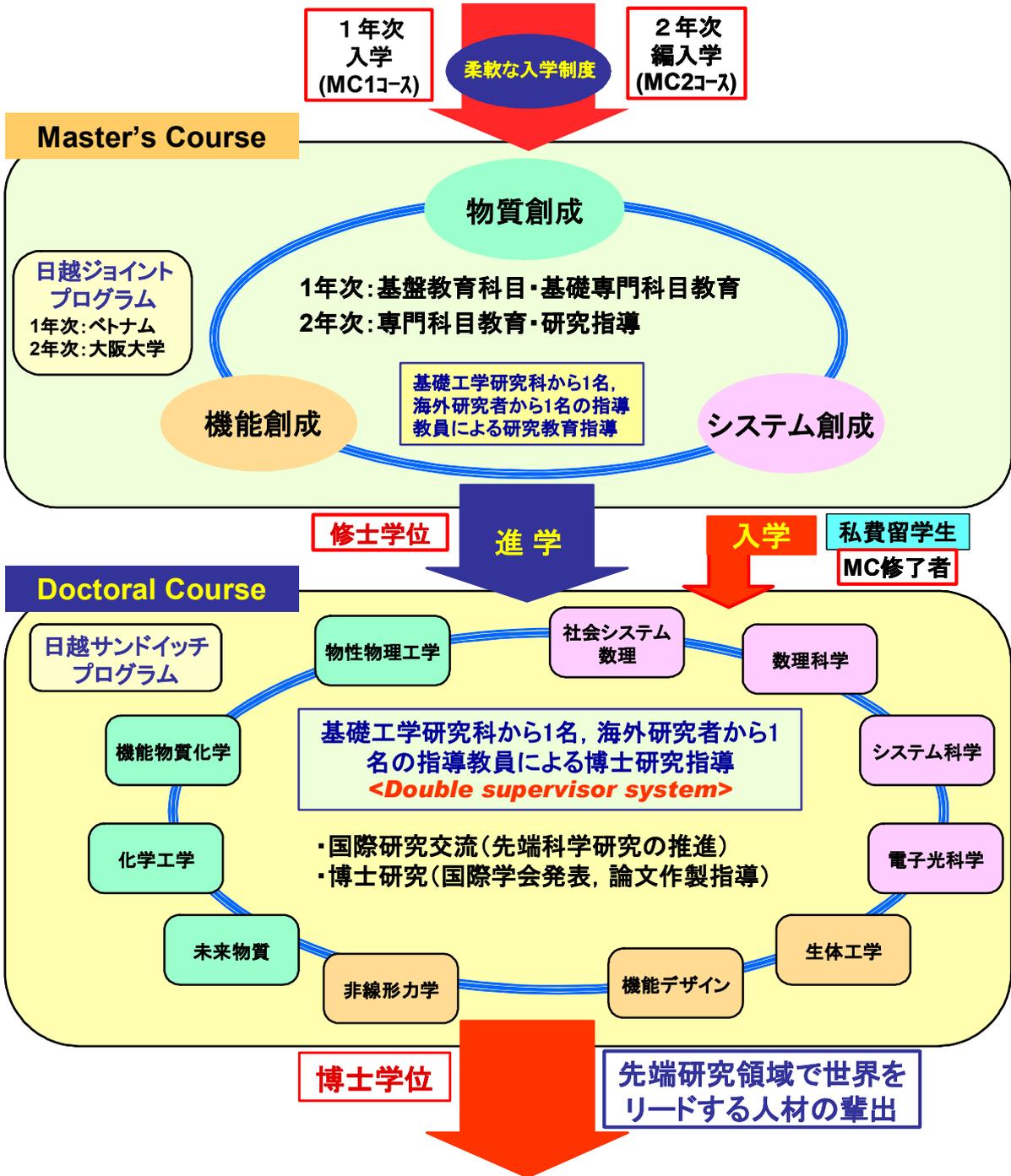
①2年次編入制度：博士前期課程については、志望留学生の就学状況に応じて、私費留学生および国費留学生を1年次に直接入学させる「MC1コース」と2年次に編入学させる「MC2コース」とする。後者については、海外の協定校を中心に募集し、研究科の教育内容と学生の専攻・専門性を勘案し、海外で修得済み科目の単位認定を行なう。年度ごとの留学生の受入れ総数は約10名とし（うち国費留学生：5名）、MC1とMC2コースの人数配分は、応募状況に応じて決定する。

②国際共同指導体制：博士前期課程、博士後期課程の留学生いずれの場合も、基礎工学研究科の物質創成専攻、機能創成専攻、システム創成専攻の3専攻に在籍する教員の中から、学生の希望と受入れ教員の合意に基づき日本側指導教員を決定する。日本側教員については、3専攻・11領域で教授51名、助教授55名が在籍しており、多くの留学生の広いニーズと研究指導に対応できる体制となっている。日本側指導教員は、学生の指導に適任と思われる研究者を海外指導教員として選定し（必ずしも留学生の出身国でなくてもよい）、「ダブルスーパーバイザー」システムとする。特に、博士後期課程学生については、関係者間の相互訪問を通じて直接的指導を実施するとともに、必要に応じて、学生が海外指導研究者の下で短期間指導を受ける期間を設け実効性の高い交流を推進する。このため、必要であれば学生の海外渡航について基礎工学研究科から支援を行う。

③留学生の支援体制：大阪大学・留学生センターが主体となって留学生の住宅の世話をする一方、基礎工学研究科独自でも、留学生のために安価な民間宿舎を斡旋する。生活面では、基礎工学研究科の留学生相談室のスタッフが、様々な面で留学生のサポートを行っている（日常生活に必要な情報の提供、日本の伝統・文化等を知る催し物の案内、地域の留学生支援グループとの交流会の開催など）。さらに、私費留学生への経済的支援として、基礎工学研究科独自の制度により、博士後期課程の成績優秀者をリサーチ・アシスタントに、前期課程の成績優秀者をティーチング・アシスタントに優先的に採用する。

“Engineering Science 21st Century”
大阪大学基礎工学研究科英語特別コース

国費留学生(5人)／私費留学生(5人)



先端科学技術の教育・研究アライアンスの構築

プログラムの概要